

(39) 食用ゆり  
(ア) 病害

病害虫名及び 防除時期	防除方法及び注意事項
りん茎さび症 (乾腐病) <i>Fusarium oxysporum</i> f.sp. <i>lilii</i> りん片先腐病 <i>Cylindrocarpon destructans</i> 植付前	耕種的防除 1. 長期輪作を行う。 2. 無病の種球を植付ける。 3. 病原菌はりん片の付傷部から侵入するので、種球に傷を付けない。 4. ほ場の土壌水分を適正に保つ(極端な乾燥は避ける)。 薬剤防除 1. 薬剤耐性情報(詳細は261~277ページ参照) チオファネートメチル剤耐性菌:全道各地に分布している。 2. 種球瞬間浸漬
葉枯病 6月下旬~9 月中旬	薬剤防除 1. 茎葉散布
ウイルス病	耕種的防除 1. 病株は早期に抜き取る。 2. 健全種球(ウイルスフリー種球など)を使用する。 物理的防除 1. 養成球栽培における寒冷紗被覆を励行する。
えそ病 ユリモットル ウイルス (LMoV)とオオ バコモザイク ウイルス (PIAMV)の重 複感染	伝染経路 1. LMoVはアブラムシによって高率に伝播されるが、PIAMVは虫媒伝染しない。 2. PIAMVはりん片繁殖、植付、摘蕾作業などによって接触伝染する。 3. PIAMVが種球伝染及び接触伝染した後、無被覆栽培でLMoVがアブラムシによって媒介され、両ウイルスが重複感染して発病する。 耕種的防除 1. ウイルスフリー球の使用のみでPIAMVの感染防止が可能で、発生を完全に防止できる。 2. ウイルス感染の恐れがある種球が混在する場合は、接触伝染を防ぐため、りん片繁殖、植付、摘蕾などの作業を隔離し、ウイルスフリー球の作業を先に行う。 物理的防除 1. 養成球栽培では寒冷紗による被覆栽培を行い、LMoVの感染を防止する。 2. 無被覆栽培期間を販売球栽培の1年のみとすることにより被害を最

病害虫名及び 防除時期	防除方法及び注意事項
	<p>小限にすることができる。</p> <p>薬剤防除</p> <p>1. 茎葉散布</p> <p>養成球栽培ではアブラムシ類の防除を行う。</p>
黒腐菌核病	<p>伝染経路</p> <p>1. 本病は種球伝染し、汚染種球が植え付けられることによって発生する。</p> <p>2. 種球は外観無病徴でも汚染されている場合があり、肉眼でそのような汚染種球を選別することは困難である。</p> <p>3. 本病は土壌伝染し、土壌中に少なくとも4年間は生存している。</p> <p>耕種的防除</p> <p>1. 発生ほ場産の鱗茎を種球・養成球として用いることは避ける。</p> <p>2. 次のゆり作付けまでの年数をできるだけ長くあける基本技術を順守する。特に発生ほ場では、その間は寄主となりうるネギ属作物の栽培を避ける。</p> <p>3. 発生ほ場で、ゆり栽培後の経過年数が少なくとも4年以下の場合は、土壌中の本病原菌の生存が確認されているので、管理作業の際に土壌の移動に注意する。</p>

(イ) 害虫

病害虫名及び 防除時期	防除方法及び注意事項
アブラムシ類 6月中旬～	<p>薬剤防除</p> <p>1. 茎葉散布</p> <p>ユリモットルウイルスを媒介するアブラムシとして、モモアカ、ワタ、チューリップヒゲナガアブラムシが知られる。</p>

(ウ) クリーン農業技術（病害虫防除関係分）（食用ゆり）

○物理的防除

- ・寒冷紗による種球のウイルス病感染回避

○耕種的防除

- ・輪作による土壌病害（りん茎さび症、黒腐菌核病等）の回避